

審査TFにおける取組の報告

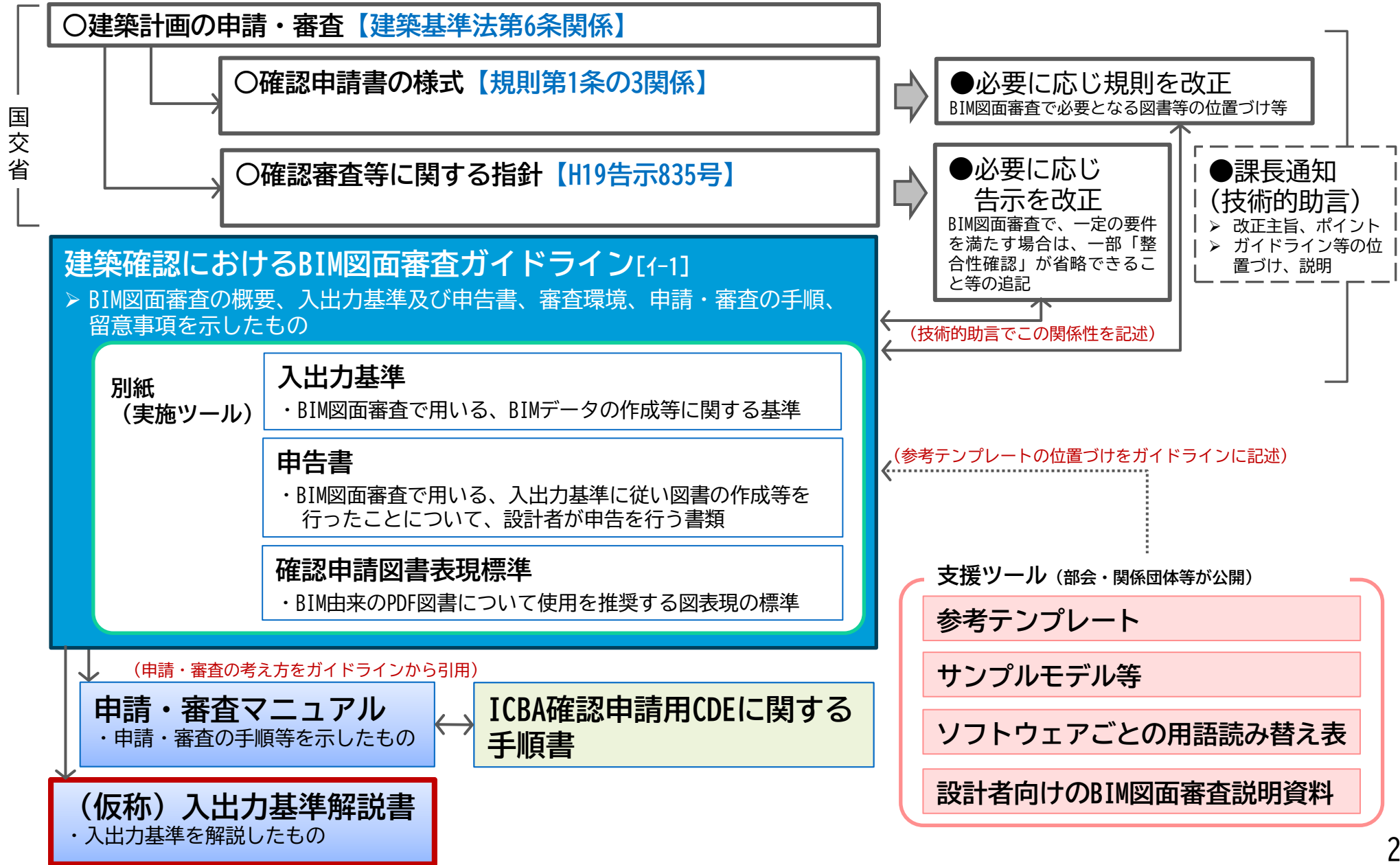
令和7年12月10日

I. 「BIM図面審査」の実施に向けた 環境整備の取組

1. 「BIM図面審査」の開始に向けた成果（案）
2. 2025年度 作業フロー（案）
3. 「BIM図面審査」の試行・検証②
4. ガイドライン（別添含む）（初版）公開に向けて
5. 申請・審査マニュアル（初版）公開に向けて
6. （仮称）入出力基準解説書（初版）公開に向けて
7. ICBA確認申請用CDEマニュアル（素案）の作成
8. サンプルモデル・テンプレートの改良
9. 設計者向けのBIM図面審査説明資料

1. 「BIM図面審査」の開始に向けた成果（案）

■ ガイドライン・マニュアル、各種ツールの位置づけ



2. 2025年度 作業フロー（案）

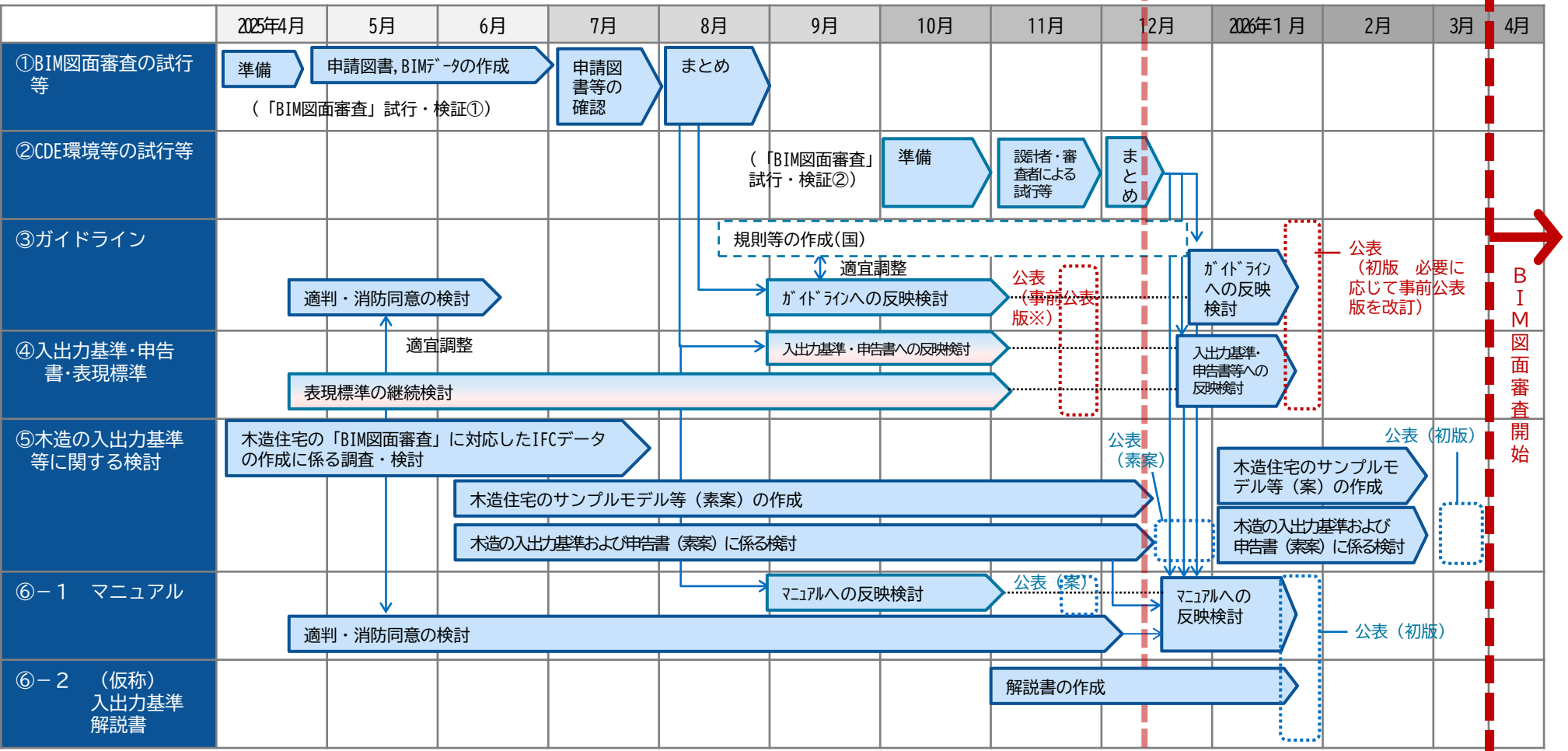
▼:環境整備部会

■ガイドライン・マニュアル関連

▼ 10/29

▼ 12/10

▼ 3月初旬



部会2

部会3

部会5

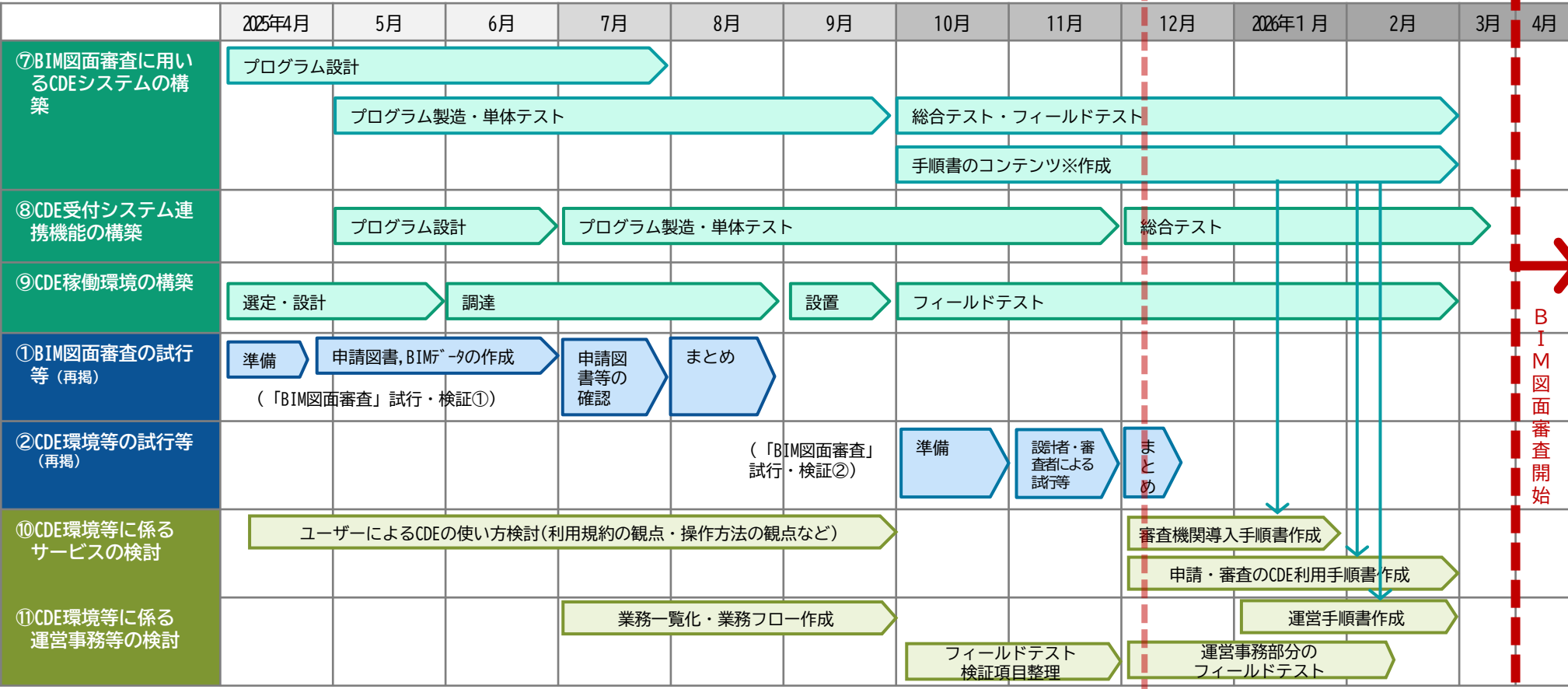
ICBA

※表現標準については、12月10日時点で事前公表版の公開に向け準備中

年度の成果のとりまとめ・報告書作成

■ ICBA確認申請用CDE関連

▼ 10/29 ▼ 12/10 ▼ 3月初旬



※コンテンツは以下の3種
①一般ユーザー用、②サイト管理者用、③CDEシステム管理・運営者用

年度の成果のとりまとめ・報告書作成

部会2

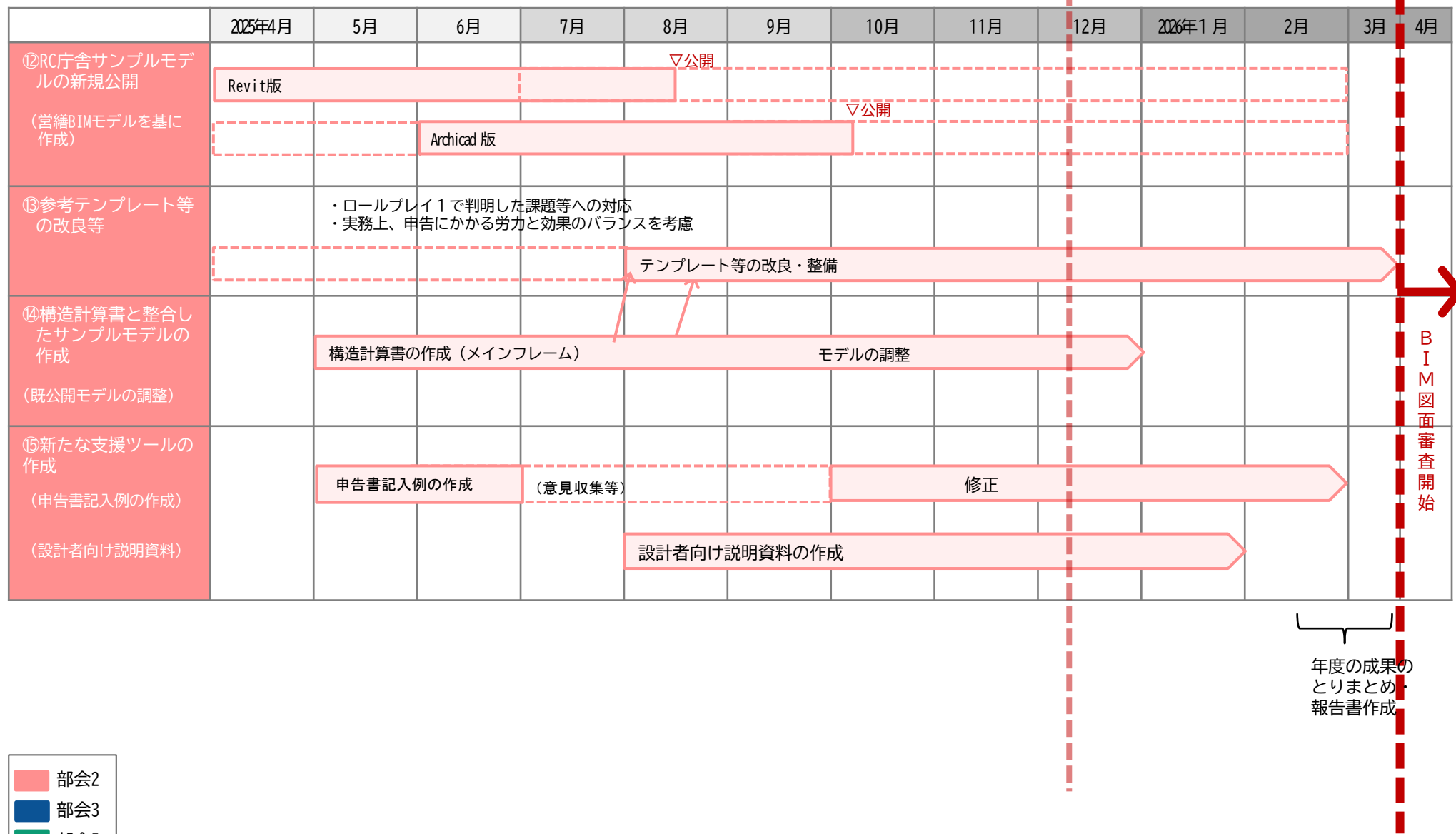
部会3

部会5

ICBA

BIM図面審査開始

■支援ツール関連



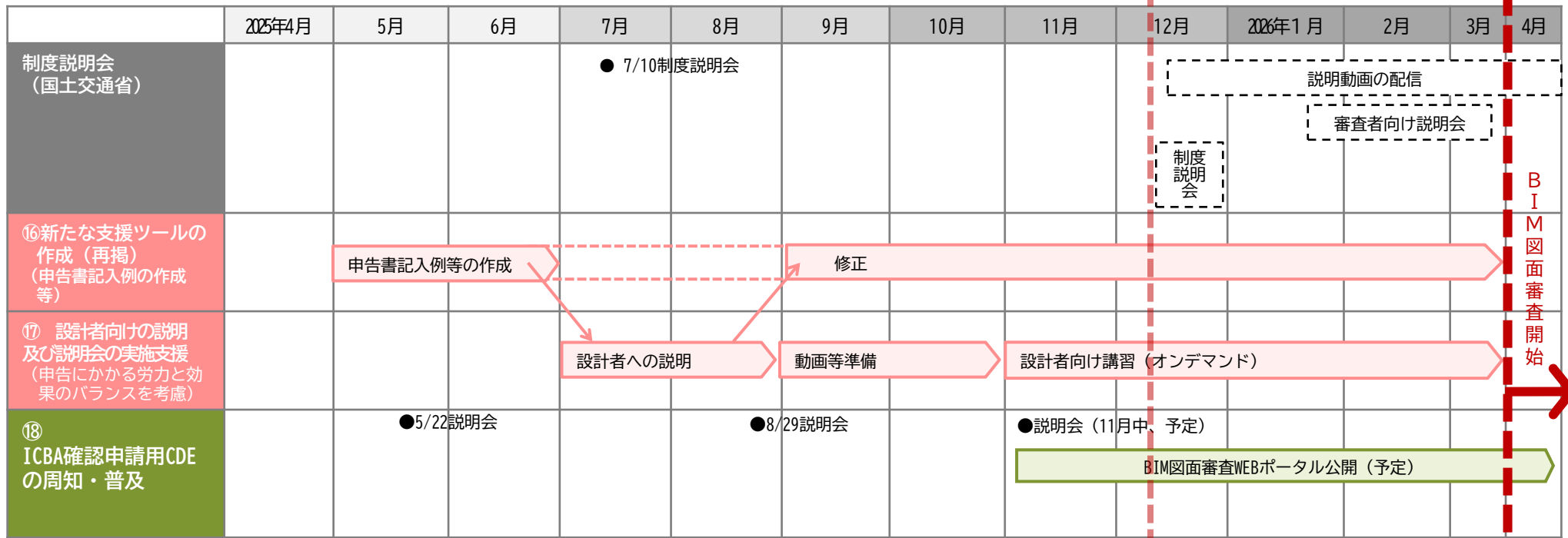
- 部会2
- 部会3
- 部会5
- ICBA

2. 2025年度 作業フロー（案）

▼:環境整備部会

■説明会、普及関連

▼ 10/29 ▼ 12/10 ▼ 3月初旬



部会2

部会3

部会5

ICBA

3. 「BIM図面審査」の試行・検証②

■目的

- 「BIM図面審査」の試行・検証②の実施目的は下記の通り。試行・検証の結果を踏まえ、必要に応じてガイドライン等の加筆・修正を行う。

目的1. 入出力基準に従い作成した確認申請図書において、設計者は整合性確認の省略項目およびその範囲を特定し、申告できるか。また、申告した部分は、整合性確認は整合しているか。

【設計者】

目的2. 設計者から提出された設計図書・申告書を用いて、設計者が考える整合性確認の省略箇所を特定でき、それを除外して審査を行うことができるか。【審査者】

目的3. 検証①の内容に加え、申請から確認済証交付までの手続きが確実に実施できるか。【設計者】【審査者】

■概要

- a) 入出力基準に基づくBIMデータの作成
- b) 作成データからの確認申請図面（PDFデータ）・IFCデータの書き出し、入出力基準適合申告書の作成
 - ※「不整合」としてチェックすべき項目を整理した上で実施
 - ※申告する項目に関する説明を実施した場合の効果、申告書の様式などの変更内容に関する検証の実施
- d) ICBA確認申請用CDEを用いた申請・審査の試行・検証（フィールドテスト）
 - ※設計者・審査者に加え、構造・省エネ適合性判定機関、消防本部が参加

→現在実施中

4. ガイドライン（別添含む）（初版）公開に向けて

■建築確認におけるBIM図面審査ガイドライン

- 今後、必要に応じて、試行・検証②を踏まえた加筆・修正を実施する。

■別紙2：BIM図面審査における入出力基準適合申告書

- 今後、入出力基準の見直しの反映するとともに、必要に応じて、試行・検証②を踏まえた加筆・修正を実施する。

■別紙3：BIM図面審査における確認申請図書表現標準

- 今後、以下についての表現方法等を追加する。
 - 1) 床面積求積図及び求積表
 - 2) 採光・換気・排煙等に係る算定表
 - 3) 内装仕上げ表

4. ガイドライン（別添含む）（初版）公開に向けて

■別紙1：入出力基準

対応1 入出力基準の見直し

- ・試行・検証①を通じて明らかになった課題を踏まえ、主に以下の見直しを行う。

1) 整合性確認の省略可能な項目に関する申請者と審査者の相互理解を向上させるための構成、文言等の見直し

- 新たに大項目（例：敷地関係、基準線関係）を設けて分類
- 各基準の細目のうち「寸法」は、新たに基準を設け一元化
- 各基準の細目のうち「位置」と「形状」は、「位置・形状」に一元化
- 「意-005 軒・ひさし」「意-009 各階の床・軒・ひさし・屋根（天井のない場合は、屋根）」を一元化
- 床面積に係る「空間オブジェクト」の用語を「領域を示すオブジェクト」に変更
- 意匠・設備分野の整合に係る基準の一部を細分化（例：機-001 外壁、間仕切壁、開口部）

2) 整合性が確保される理由や原理に応じた文言や基準の見直し

- 意匠分野の基準に「各階の天井」を追加
- 基準を満たすためのBIMモデル作成の負担が大きい基準を削除（例：意-017・機-008 令第112条第16項に規定する部分）
- 意匠・設備分野の整合に係る基準のうち、整合を確保することが難しい基準を削除（例：機-006 各室の天井高さ、機-005 各階の各室の床面積の求積に必要な建築物の各部分の寸法及び算式面積）

※a～iは現時点での案であり、初版公開までに変更がある可能性があります。

●入出力基準の構成、文言等の見直しイメージ

3-1 意匠分野

意匠分野におけるBIMデータの作成の方法に関する基準は、以下の通りである。

○敷地関係

意-001 敷地境界線

<形状情報>

①形状

・敷地境界線の形状は、敷地境界線オブジェクトを用いて入力し、表示する。

②各辺の長さ

・敷地境界線の各辺の長さは、敷地境界線オブジェクトより自動算出し、表記する。

③敷地面積の求積に必要な敷地の各部分の寸法及び算式

・敷地面積は、敷地境界線オブジェクトで囲われた領域を示すオブジェクトを用いて入力し、表記する。

・敷地面積は、当該領域オブジェクトより自動算出し、それらの合計を自動計算し、表記する。

<属性情報>

④種別・敷地境界線の種別（道路境界線、隣地境界線などの別）は、敷地境界線オブジェクトに属性情報として入力し、表記する。

意-002 地盤面及び平均地盤面

<形状情報>

①地盤面及び平均地盤面からの建築物の各部分の高さ

・地盤面及び平均地盤面の高さは、地盤面及び平均地盤面の基準レベルを設定するオブジェクトを用いて入力し、表示する。

・地盤面又は平均地盤面からの建築物の各部分の高さは、地盤面又は平均地盤面のそれぞれの基準レベルを基点とし、オブジェクトと連動して各部分の高さを表記する機能又はオブジェクトと連動して距離を表記する機能（寸法線ツール）を用いて自動算出し、表記する。

○基準線関係

意-003 方位

<形状情報>

・方位は、方位オブジェクトを入力する、又はBIMデータに入力した方位の情報に連動する機能を用いて入力し、表示する。

意-004 通り芯

<形状情報>

①形状

・通り芯の形状は、通り芯オブジェクトを用いて入力し、表示する。

②通り芯間の寸法

・通り芯間の寸法は、通り芯オブジェクトと連動して距離を表記する機能（寸法線ツール）を用いて自動算出し、表記する。

<属性情報>

③符号

・通り芯の符号は、通り芯オブジェクトの属性情報を用いて入力し、表記する。

4. ガイドライン（別添含む）（初版）公開に向けて

●入出力基準（初版）の項目のイメージ（赤字：事前公表版から名称・番号の変更が予定されているもの）

部門	意匠	構造	設備
事項	●敷地関係 意-001 敷地境界線 意-002 地盤面及び平均地盤面	○意匠図との整合に関する事項 ○構造分野の事項 ●基準線関係 共通-001 通り芯 共通-002 各階基準線	○意匠図との整合に関する事項 ○機械設備分野の事項 ●基準線関係 機-001 敷地境界線 ●基準線関係 機-002 通り芯
	●基準線関係 意-003 方位 意-004 通り芯 意-005 各階基準線	●建築要素 <基礎> 基礎-001 基礎ぐい 基礎-002 基礎 基礎-003 地盤改良工法	○電気設備分野の事項 ●基準線関係 電-001 敷地境界線 ●基準線関係 電-002 通り芯
	●建築要素 意-006 外壁 意-007 間仕切壁 意-008 各階の床、屋根、軒及びひさし等 意-009 各階の天井 意-010 開口部	<鉄筋コンクリート造> RC-001 柱 RC-002 大ばり RC-003 小ばり RC-004 床版(デッキ床含む)	●建築要素 機-003 外壁 機-004 間仕切壁 機-005 各階の床、屋根、軒及びひさし等
	●領域・空間要素 意-011 各室の用途 意-012 建築面積の求積に必要な建築物の各部分の寸法及び算式 意-013 各室の用途各階の各室の床面積の求積に必要な建築物の各部分の寸法及び算式	RC-005 屋根版 RC-006 耐力壁 RC-007 非耐力壁	●領域・空間要素 機-006 開口部 ●領域・空間要素 機-007 各室の用途
	●防火・避難関係 意-014 防火区画等（令第112条及び令第114条の規定） 意-015 防煙壁による区画（令第126条の2の規定） 意-016 防火設備 意-017 非常用の進入口等 意-018 令第126条第1項に規定する手すり壁、さく又は金網	<鉄骨造> S-001 柱 S-002 大ばり S-003 小ばり S-004 鋼板床 S-005 斜材 S-006 鋼板壁	●防火・避難関係 機-008 防火区画等（令第112条及び令第114条の規定） 機-009 防煙壁による区画（令第126条の2の規定） ●その他 機-010 給気機及び排気機 機-011 排煙設備
			●防火・避難関係 電-003 外壁 電-004 間仕切壁 電-005 各階の床、屋根、軒及びひさし等
			電-006 開口部
			●領域・空間要素 電-007 各室の用途
			●防火・避難関係 電-008 防火区画等（令第112条及び令第114条の規定）
			電-010 非常用の照明装置

4. ガイドライン（別添含む）（初版）公開に向けて

■別紙1：入出力基準

対応2 木造の入出力基準（素案）の公表

- ・ 年内を目途に、木造（軸組工法・桝組工法）の入出力基準の素案を公開する。
- ・ 2026年3月には同：初版を公開する予定である。

番号	入出力基準に従い作成した明示すべき事項等	細目
基礎-003	地盤改良工法	①位置及び形状
		②符号
		③構造方法
		④材料の種別
W共通-001	土台	①位置及び形状
		②符号
		③材料の種別
		④柱の種別
W共通-002	床版	①位置及び形状
		②符号
		③材料の種別
		④開口部の位置及び形状
W共通-003	耐力壁（面材）	①位置及び形状
		②符号
		③材料の種別
		④開口部の位置及び形状
W共通-004	耐力壁（筋かい）	①位置及び形状
		②符号
		③材料の種別
		④開口部の位置及び形状
W共通-005	準耐力壁（面材）	①位置及び形状
		②符号
		③材料の種別
		④開口部の位置及び形状
W共通-006	アンカーボルト	①位置及び形状
		②符号
		③材料の種別
		④開口部の位置及び形状
W共通-007	金物	①位置及び形状
		②符号
		③材料の種別
		④開口部の位置及び形状
W共通-008	屋根版	①位置及び形状
		②符号
		③材料の種別
		④開口部の位置及び形状

番号	入出力基準に従い作成した明示すべき事項等	細目
W軸組-001	柱	①位置及び形状
		②符号
		③材料の種別
		④柱の種別
W軸組-002	大ばり	①位置及び形状
		②符号
		③材料の種別
		④接合金物の構造
W軸組-003	小ばり	①位置及び形状
		②符号
		③材料の種別
		④接合金物の構造
W軸組-004	火打ち材	①位置及び形状
		②符号
		③材料の種別
		④接合金物の構造
W軸組-005	小屋組	①位置及び形状
		②符号
		③材料の種別
		④接合金物の構造
W桝組-001	床根太	①位置及び形状
		②符号
		③材料の種別
		④釘の種類
W桝組-002	開口部（まぐさ及びまぐさ受け）	①位置及び形状
		②符号
		③材料の種別
		④開口部の位置及び形状
W桝組-003	小屋組	①位置及び形状
		②符号
		③材料の種別
		④接合金物の構造

- W共通-001 土台**
＜形状情報＞
①位置及び形状
・ 土台の位置（土台の配置）及び形状（土台の断面形状（矩形）、せい及び幅）は、台/梁オブジェクト等を用いて入力し、表示する。
＜属性情報＞
②符号
・ 土台の符号は、土台/梁オブジェクト等の属性情報として入力し、表記する。
③材料の種別
・ 土台の使用材料（木材の材種）は、土台/梁オブジェクト等に属性情報として入力し、表記する。
- W共通-002 床版**
＜形状情報＞
①位置及び形状
・ 床版の位置（床版の有無及び配置）及び形状（床版の形状及び厚さ）は、床オブジェクトを用いて入力し、表示する。
＜属性情報＞
②符号
・ 床版の符号は、床オブジェクトの属性情報として入力し、表記する。
③材料の種別
・ 床版の使用材料（床版の材料種別及び厚さ、釘の種類及び釘打ち間隔）及び倍率は、床オブジェクトに属性情報として入力し、表記する。
- ＜形状情報（床版の開口部）＞
④開口部の位置及び形状
・ 開口部の位置（床開口部の有無及び配置）及び開口部の形状（床開口部の外形）は、床オブジェクトを用いて入力し、表示する。
- W共通-003 耐力壁（面材）**
＜形状情報＞
①位置及び形状
・ 耐力壁（面材）の位置（耐力壁（面材）の配置）、形状（耐力壁（面材）の形状（矩形）、幅、高さ及び厚さ）は、耐力壁/壁オブジェクト等を用いて入力し、表示する。
＜属性情報＞
②符号
・ 耐力壁（面材）の符号は、耐力壁/壁オブジェクト等の属性情報として入力し、表記する。
③材料の種別
・ 耐力壁（面材）の使用材料（耐力壁（面材）の材料種別及び厚さ、釘の種類及び釘打ち間隔）及び壁倍率は、耐力壁/壁オブジェクト等に属性情報として入力し、表記する。

4. ガイドライン（別添含む）（初版）公開に向けて

■（参考）木造の入出力基準（素案）に基づいたサンプル図面等の作成例



5. 申請・審査マニュアル（初版）公開に向けて

- 「BIM図面審査試行・検証①」の検証結果を踏まえて公表済みのマニュアル（素案）を加筆・修正し、11月に「BIM図面審査 申請・審査マニュアル（案）」として公表した。
- 今後、現在実施している「BIM図面審査試行・検証②」の検証結果を踏まえ、加筆・修正を行う。想定される加筆・修正事項は次のとおりである。
 - 1) 審査環境（確認申請用CDE）について
 - 2) 構造適判、省エネ適判、消防同意の申請・審査ステップについて
 - 3) その他、検証者からの改善提案事項等を精査してマニュアルに反映

(仮称) BIM 図面審査 申請審査者用マニュアル (案)

目次

はじめに

1. マニュアルの位置づけ等

1. マニュアルの位置づけ

2. 用語の定義

II. BIM 図面審査の概要

1. BIM 図面審査の定義

2. BIM 図面審査の適用について

3. BIM 図面審査の流れ

III. 申請者の準備

1. 入出力基準に基づく BIM モデルの作成

2. 「入出力基準」の概要

3. 「BIM 図面審査における入出力基準適合申告書」の概要

4. 入出力基準に基づく入出力（表示・表記）の具体例

5. BIM 図面審査における申請図書表現標準

IV. 審査者の準備

1. 審査環境の整備

2. 確認申請用 CDE の基本機能

V. 申請の手順

1. 「確認申請書様式」の作成・提出

2. 申請図書（図面）の作成・提出

（1）BIM 由来のデータの作成（BIM ソフトウェア）について

（2）BIM 由来ではない付加された情報（2D 加筆）の取り扱いについて

（3）BIM ソフトウェアからのデータの変換方法について

（4）BIM 図面審査として受け付けられない場合について

VI. 審査の手順

1. 申請図書等の確認

（1）データ出力の確認について

（2）IFC データの活用について

2. 審査の実施

3. 適合性判定

4. 消防同意・確認済証交付・図書保存

（1）消防同意について

（2）適合性判定について

（3）確認済証の交付について

（4）データの保存について

申告書第 2 面以降の様式は図 3-7-2 のとおりである（表側に入出力基準の項目、裏面に図書の名称の場合）。表側に入出力基準の項目（明示すべき事項等）、表側に図書の種類となっており、設計者は入出力基準の項目等に、基準に使い入出力を行ったかどうかについて、表側の図書ごとに〇△の記号を付す様式となっている。

なお、当該申告書の様式は参考様式であり、各種認定審査機関等が審査事項に応じて個別の様式を定めることもできる。このため、特に第二面以降の様式については確認審査機関等で異なること（例えば図 3-7-2 において、①と②と反転する等）もあることから、申請する各種認定審査機関等の取扱いを事前に確認しておく必要がある。

○申告書第 2 面以降

入出力基準に使い作成した図書（明示すべき事項等）

入出力基準に使い作成した図書（申告事項）

図 3-7-2 申告書第 2 面以降の様式（図は第二面（意見関係）のもの）

①入出力基準に使い作成した部分

「建築確認における BIM 図面審査ガイドライン 別紙 1：入出力基準」で示されている基準の番号、明示すべき事項等、細目と同一のものとしている。入出力基準の項目と一致させる必要があるため、これを改変したり追加したりしてはならない。

ただし、申請する図書において該当する基準項目がない場合や入出力基準に使用していない項目については、当該項目を削除（行削除）してもよい。

②入出力基準に使い作成した図書

原則として申告対象とする図書のみの記載する。

設計図書名は、審査者が該当する図書を特定できるように対象とする当該申請に係る図書の名称と一致させる。

4. 消防同意・確認済証交付・図書保存

【ガイドライン 5 STEPS】

○消防同意

・審査者は、確認に係る建築物の工事施工地又は所在地を管轄する消防長又は消防署長（以下、「消防長等」という。）に同意を依頼する。～①

・消防長等は、図書を確認し、審査結果を通知する。～②

・消防同意で図書の修正等が生じた場合、審査者は申請者にその旨を伝え、申請者は審査者を通知して修正した図書を消防長等に送付する。～③、④

・消防長等は、修正等が完了した場合は、同意した旨を通知する。～⑤

○適合性判定

・適合性判定機関は適合判定通知書の交付を行う。～⑥

○確認済証の交付

・審査者は消防同意した旨の通知及び適合性判定の通知受領後、確認済証を交付する。～⑦

・申請者は交付済図書ダウンロードし、副本として取り扱う。～⑧

○図書保存

・審査者は、確認済証を交付した PDF 形式の図書を正本として法定の期間保存する。～⑨

（→ガイドライン 4 BIM 図面審査の図書保存について）

消防同意から確認済証の交付、図書保存までの手順については、ガイドラインの「5 申請及び審査の手順」の STEPS に使い審査を進めていく。以下に当該フローを示す。

申請者

消防同意申請 CDE

電子申請受付システム

審査者

消防長等の依頼

適合性判定機関

消防

申請図書等の提出

消防同意の依頼

審査結果の通知

修正した図書の送付

修正完了後、同意した旨の通知

適合性判定結果の通知

確認済証の交付

交付済図書のダウンロードして副本として保存

図書保存

図 6-4 消防同意から図書保存までのフロー

29

66

13

6. (仮称) 入出力基準解説書 (初版) 公開に向けて

■ (仮称) 入出力基準解説書 (初版) のイメージ

意匠-003 通り芯

1. 審査上の位置づけ

- ・ 通り芯は、建築物の位置・柱梁配置・面積算定の全ての基準となる。したがって、必ずオブジェクトとして定義し、図面ごとに描き直してはならない。

2. 基準本文

意-003 通り芯 (最終的には見直し案に置き換え)

- ①形状
 - ・ 通り芯の形状は、通り芯オブジェクトを用いて入力し、表示する。
- ②符号
 - ・ 通り芯の符号は、通り芯オブジェクトの属性情報を用いて入力し、表記する。
- ③通り芯間の寸法
 - ・ 通り芯間の寸法は、オブジェクトと連動して距離を表記する機能 (寸法線ツール) を用いて自動算出し、表記する。

【整合性省略の内容】

- ①通り芯の線形
- ②通り芯の符号
- ③通り芯間の寸法

3. オブジェクトと入力原則

- ・ 「通り芯オブジェクト」を使用する。
- ・ 符号 (番号・記号) は 通り芯オブジェクトの属性として入力する。

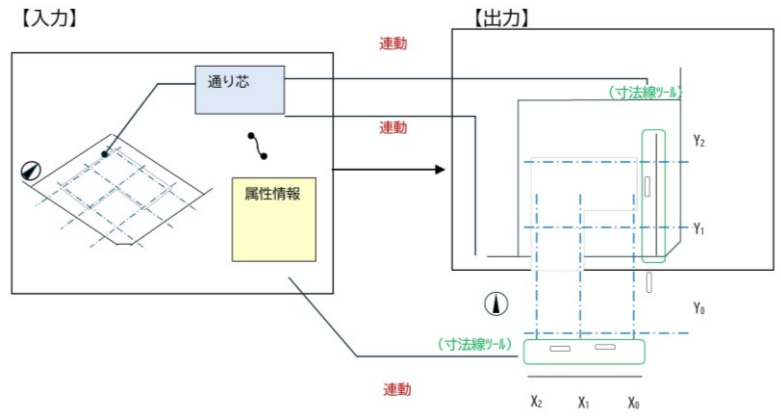
4. 自動算出・自動連動に関する要件

- ・ 通り芯間寸法は、寸法線ツール (オブジェクト連動) により自動算出・自動表記する。
- ・ 通り芯情報は、平面図・断面図・構造図間で共通基準として使用する。

5. 図面出力時の表記方法

- ・ 平面図には 必ず通り芯記号と寸法を図示する。
- ・ 断面図・立面図では 必要位置に通り芯延長線を表示する。

6. 図解



7. 禁止事項 (理由つき)

禁止操作	理由
図面上で線分として通り芯を描く	他図面で位置が一致せず、整合性確認ができなくなる
寸法値を手入力で記入・修正する	モデル変更に追従せず 計算結果が法的に無効となる
構造図側で通り芯を描き直す	意匠と構造で基準が不一致となり 審査指摘が確実に発生

8. 良い例 / 悪い例

良い例	悪い例
通り芯=モデル中心線 → 寸法は自動算出	柱位置に合わせて通り芯を“描く”
符号変更 → 全図面へ自動反映	図面ごとにG→Hへ手作業修正

9. 二次元CAD経験者向け概念補足

- ・ CADでは「通り芯=補助線」。BIMでは「通り芯=すべての部材位置と数値の参照軸」。つまり、通り芯を正しく入力しない限り、以降の建築情報は成立しない。

7. ICBA確認申請用CDEマニュアル（素案）の作成


- 確認申請用CDEの全機能の操作を記すベース原稿（2025年11月現在、A4版約1,000ページ）を作成中である。
- 1月～2月にベース原稿の校正を行い、これを基に一般ユーザ用操作マニュアル、サイト管理者用操作マニュアル、システム運営者用操作マニュアルの2026年3月15日の完成を目指す。
- 確認申請用CDEの操作マニュアルの作成作業は、遅延なく順調に進めている。

2 基本操作《簡易マニュアル》 CDE マニュアル ― 管理者用 ― Ver1.00 Rev1.00 2025/6/1

2.1.5 プロジェクト選択するには？

1] プロジェクト選択画面の表示

メニューバーの「プロジェクト」をクリックして、「プロジェクト選択画面」へアクセスします。

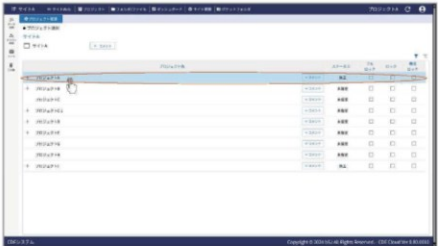


Memo

「トップ画面」の選択がプロジェクト選択に設定されている。あるいはフォルダ/ファイルリストに設定されているプロジェクトが選択されていない場合は、自動的に「プロジェクト画面」が表示されます。

2] プロジェクト選択

「プロジェクト選択画面」で作業を行うプロジェクトを左クリックします。選択したプロジェクトは青帯で表示されます。



Memo

- 青帯で選択されているプロジェクトを再度左クリックすると選択が解除されます。
- プロジェクト名の前に「+」が付いているプロジェクトには、アクセス可能なプロジェクトが存在します。
- 「+」を左クリックすると、サブプロジェクトが展開されます。
- プロジェクト表示を上位に戻すには、上部のプロジェクト「ハンズ」リストで戻りたいプロジェクトを左クリックします。


CDE Cloud Ver1.00 - 2-8 - 一般社団法人 buildingSMART Japan

2 基本操作《簡易マニュアル》 CDE マニュアル ― 管理者用 ― Ver1.00 Rev1.00 2025/6/1

2.1.6 フォルダ/ファイル操作するには？

1] フォルダ/ファイルリスト画面の表示

メニューバーの「フォルダ/ファイル」をクリックして、「フォルダ/ファイルリスト画面」にアクセスします。

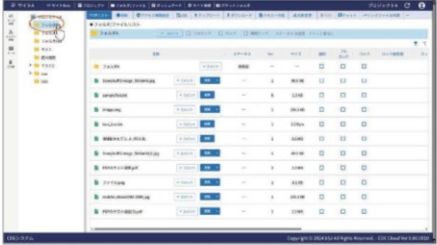


Memo

- 「トップ画面」の選択がフォルダ/ファイルリストに設定されていて、プロジェクトが選択されている場合は、ログイン後自動的に「フォルダ/ファイルリスト画面」が表示されます。
- プロジェクトが選択されていないと「フォルダ/ファイルリスト画面」にアクセスできません。

2] フォルダ/ファイルの選択

「フォルダ/ファイルリスト画面」の左側ツリーで作業を行うフォルダを左クリックします。選択したフォルダが青帯で表示され、フォルダに格納されているファイルおよび下位フォルダが表示されます。



Memo

- フォルダの選択は、左側ツリーでフォルダを左クリックするか、右側フォルダ/ファイルリストのフォルダを左クリックすることで行えます。
- 左側ツリーのフォルダの前に「v」の付いているフォルダにはアクセス可能なサブフォルダが存在します。
- フォルダの展開は「v」を左クリックするか、右側のフォルダ/ファイルリストのフォルダを左ダブルクリックすることで行えます。

CDE Cloud Ver1.00 - 2-9 - 一般社団法人 buildingSMART Japan

8. サンプルモデル・テンプレートの改良

- RC造3,000㎡庁舎モデルを追加したほか、申告書の書式や参考テンプレートなどを適宜更新している。
- サンプルモデル（事務所モデル、庁舎モデル）については、意匠、構造、設備を合わせ、11月20日現在で1万件を超えるダウンロードがある。



BIMソフトウェア		S造1000㎡事務所モデル				RC造3000㎡庁舎モデル		
		サンプルモデル	参考テンプレート	PDF出力例	申告書記入例	サンプルモデル	PDF出力例	申告書記入例
意匠	Revit 2022	○	○	○	○	○	○	○
	Archicad	○ (Archicad26)	○	○	○	○ (Archicad27)	○	○
	Vectorworks 2024	○	○	○	○	—	—	—
	GLOOBE 2025	○	○	○	○	—	—	—
	参考IFC	○				○		
構造	Revit 2022	○	○	○	○	○	○	○
	参考IFC	○				○		
設備	Revit 2022	○	○	○	○	○	○	○
	Rebro	○	○	○	—	—	—	—
	CADWe'll T-fas/Linx	○	○	○	—	—	—	—
	CADEWA Smart	○	○	○	—	—	—	—
	FILDER CEED	○	○	○	—	—	—	—
	参考IFC	○				○		

https://blcj.or.jp/sample_form/

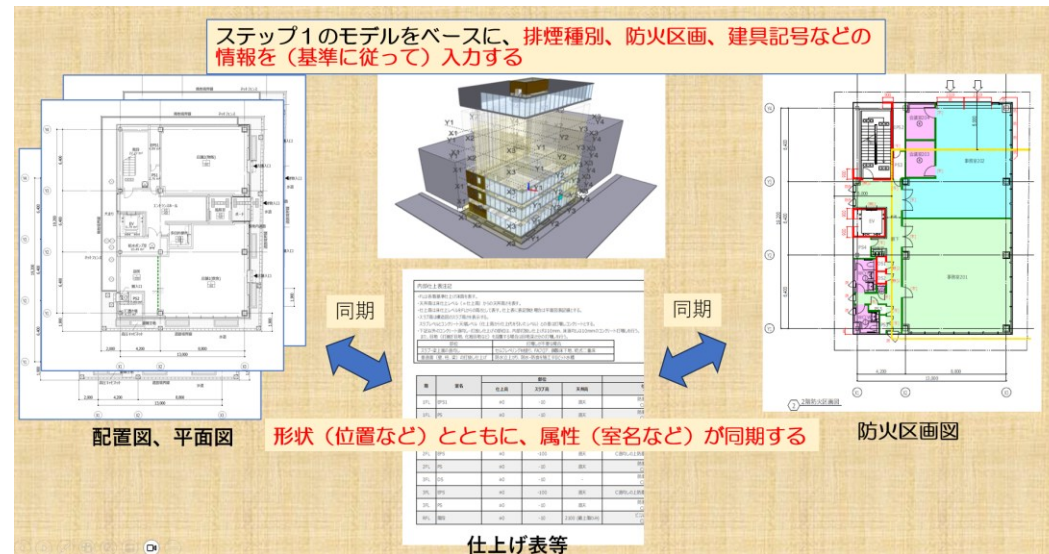
9. 設計者向けのBIM図面審査説明資料

- 設計者を主たる対象として
BIM図面審査の講習動画（Youtube版、PPT版）を作成し、
BIMライブラリ技術研究組合のホームページで公開した。
- 「BIM図面審査に関心を持っていただくこと」を主眼に、BIM図面審査に取り組むにあたってのヒントなど、実務に役立つ内容に重点をおいている。

【コンテンツ】

1. BIM図面審査の位置づけ、ねらい
2. BIM図面審査のコンセプト、基本的な仕組み
3. 設計者にとってのメリット
4. 「BIM図面審査」導入のヒント
5. 申告書作成のポイント
6. BIM設計の留意点など

【スライドの一部】



Ⅱ. 「BIMデータ審査」の実施に向けた 環境整備の取組

- 2029年春の制度開始に向け、個別の課題についての検討を主に部会単位で実施中である。（今回、具体的な報告はなし。）
- ▼ 10/29 ▼ 12/10 ▼ 3月初旬

